

令和7年6月定例会 一般質問

質問日 令和7年6月10日⑤

質問者 浦本 ともえ 議員



大阪維新の会大阪府議会議員団の浦本ともえです。通告に従いまして順次質問いたします。

1. 大阪 I R 開業に向けた取組み状況

はじめに I R について、お伺いいたします。

大阪では、2025 年大阪・関西万博の開催に続き、2030 年秋頃に I R が開業する予定です。今後大阪は、経済的に大きな価値を生み出していなかった湾岸エリアの位置づけを大きく転換させ、新たなにぎわいづくりの拠点を形成していくこととなります。

多くの観光客を呼び込み、大きな経済波及効果や雇用創出効果に加え、幅広い産業分野の活性化などが見込まれるとともに、より一層、大阪の都市魅力が高まるのかと思うと期待が膨らみます。日本が観光立国を推進する上で I R は重要な取組みであり、I R は大阪・関西圏の発展や、日本の成長に寄与するとともに、大阪・関西、日本の魅力を世界に発信する観光拠点となることが期待されています。

昨年度末に大阪維新の会府議会議員団でラスベガスを含む北米行政調査へ行ってきました。パネルをお願いします。

ラスベガスコンベンションセンター



(2025年3月29日撮影)

1

こちらは、世界最大級のコンベンションセンターであるラスベガスコンベンションセンターです。16の展示ホール、および144の会議室があります。

インドアゴルフ（エンターテイメント施設）

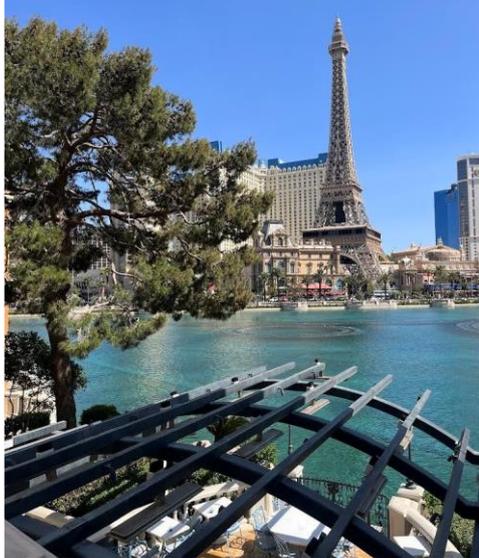


(2025年3月29日撮影)

2

こちらは、インドアゴルフの施設で、全天候型かつ初心者、経験者のゴルフの腕前や、年齢層、体力などに関わらず、多くの方が楽しむことができる施設です。

ラスベガス市街地ホテルの噴水ショー（エンターテインメント）



(2025年3月29日撮影)

3

まちなかにはこのように大型の噴水があり、定刻で大規模な噴水ショーが楽しめます。夜は特別な照明の演出があり、昼と夜で別の楽しみ方ができます。

このようにラスベガスは、子ども連れの家族から大人まで幅広い年齢層で楽しめるまちへと進化を果たし、観光業を中心に地域経済へ大きな影響を与えています。IRの成功により、自治体の知名度が向上し、地域ブランドの価値が高まりました。IRを中心とした観光都市として、世界的に認知されるようになったと聞いております。大阪でも地域特性に即した好事例を積極的に取り入れ、大阪らしさ満載のIR、世界最高水準のIRとして成功させ、大阪のさらなる成長、発展を実現していただきたいと考えています。

そこで、大阪IRはどのような施設やコンテンツを予定しているのか、そして、これまで長きに渡りIRの実現に尽力され、この春IR推進局長にご就任された榎本局長の意気込みと併せて、お伺いいたします。

【IR推進局長】

- IRは、国際競争力の高い魅力ある滞在型観光を実現することにより、観光及び地域経済の振興に寄与するものであり、大阪IRについては、昨年10月の準備工事着手に引き続き、本年4月に、起工式が催され、建設工事に着手したところ。
- 大阪IRは、日本最大級のオールインワンMICE施設、大阪・関西・日本の魅力を発信する魅力増進施設、日本観光のゲートウェイとなる送客施設、客室数約2,500室の宿泊施設、国際的なエンターテインメント施設等を備え、魅力あふれる施設となっている。

- MICE施設については、ラスベガス最大のMICEオペレーターであるMGMの知見等も活かしながら、参加者1万人を超える規模の国際会議を誘致していくとともに、大阪・関西万博のレガシーを継承し、大阪・関西の新たな技術の実証・実装や世界への発信に取り組み、既存施設と連携した新たなイベントの創出等により、国際競争力のある地元産業の振興に貢献していく。
- エンターテインメント施設については、例えば、夢洲シアターでは、世界的なアーティストによるコンサートや映画・音楽の授賞式を行うとともに、大阪IRでしか見られないショーやイベントのほか、誰もが楽しめるエンターテインメント・コンテンツを多数展開するなど、幅広い客層の誘客を促進することとしている。
- 全ての来訪者に新鮮な驚きや感動の「WOW」体験をもたらし、世界中のビジネス客からファミリー層まであらゆる人が楽しめる、国際的なエンターテインメント拠点の形成をめざし、2030年秋頃の大阪IRの開業に向け、引き続き、公民連携しながら、全力で取り組みを進めていく。

【要望】

ありがとうございます。大阪IRは、大阪・関西万博後の大阪・関西の活力をけん引する、新たな大阪観光の核となると確信しています。2030年秋頃の開業に向け、これまで以上に積極的な取り組みをよろしくお願いいたします。

2. ナイトコンテンツの充実及び府内周遊の促進

次に、ナイトコンテンツの充実及び府内周遊の促進についてお伺いいたします。

2025年大阪・関西万博を契機に国内国外から多くの観光客が大阪を訪れており、その数は今後も増えていくものと期待をしています。来阪される方々には、万博を楽しんでいただくことはもちろんのこと、万博会場から帰るときや大阪を離れる前には、大阪の夜の街も楽しんでいただきたいと思います。

御堂筋では万博開催期間中、特別に4月からイルミネーションを点灯させ、街を彩っていますが、夜間を満喫して頂くためには、さらに多くのコンテンツが必要ではないかと考えます。また、万博前後の日程には、府内各地にある魅力的な観光スポットを巡り、少しでも長く大阪に滞在いただきたいと思います。府内には、自然や文化・歴史、またそこでしか味わうことのできないおいしいものなど、数多くの魅力的な地域資源があります。

しかし、私の地元・池田市でも観光客の姿を見かけるのは一部の地域に限られることが大変残念です。その要因として、地域資源の情報の多くが観光客まで十分に届いていないことや、交通手段が分かりづらいといった事情があるのではないのでしょうか。

そこで、観光客に夜の街を楽しんでいただくための府の取組みと府内各地の魅力的なスポットを周遊していただくための取組みについて、併せて府民文化部長にお伺いいたします。

【府民文化部長】

- 府では、多くの観光客に大阪の夜を楽しんでいただくため、万博特別点灯として、4月から実施している御堂筋イルミネーションの25時までの延長点灯や、水の回廊の主要なスポットでの大規模なウォーターショーの夜間までの実施に加え、民間事業者が新たに立ち上げるナイトコンテンツへの支援も行っているところ。
- また、観光客の周遊促進については、府内の魅力的なモデルコース等を紹介する観光ガイドブック「DISCOVER OSAKA」により、地域資源の魅力を発信するとともに、今年度には、バスだけでなく、タクシーなどの交通手段も組み合わせ、効率的に府内各地を観光できる周遊ツアーをモデル事業として実施することとしている。
- 今後とも、国内外からお越しになる観光客の方々に、大阪での滞在を満喫していただけるよう、多言語による対応等も行いながら、ナイトコンテンツの充実や府内周遊の促進に一層取り組んでまいります。



【要望】

大阪府では現在、いわゆる「オーバーツーリズム」は起こっていないという認識の元、事業が進められています。しかし、一部では交通渋滞や迷惑駐車、違法民泊、ごみ問題など観光客のもたらすダメージは局地的ですが、起きていると考えております。

現在、万博が開催されており、着実に大阪を訪れる観光客は増加しています。またその先には IR の開業を予定しており、これまで以上に大阪府を観光地として選択する方が増えることは確実です。

ナイトコンテンツ、府内周遊促進はどちらもオーバーツーリズム対策を目的としている事業ではないことは理解しております。しかし、今のうちから時間の分散に着目すること、府内の魅力あるスポット一円に観光客を周遊させることは、間接的であったとしても オーバーツーリズム対策に繋がるのではないかと考えます。意欲ある事業者にとっても大変喜ばしいことですので、ぜひ今後も多様な視点から事業を進めていただきたいと思います。引き続きよろしくお願いたします。

3. 事業承継支援の実績と今後の取組み

次に、事業承継支援の実績と今後の取組みについてお伺いたします。

府内中小企業における後継者不在率は、減少傾向にあるものの依然として約半数が後継者不在であり、2025年版中小企業白書によると、75歳以上の経営者の割合が過去最多となっています。また、2023年の日本政策金融公庫の調査によると、廃業理由の約3割が後継者難というデータが公表されています。

私の地元でも、地域で長年愛されているご高齢の方が経営する飲食店から、後継者がいないため閉店を余儀なくされたという声を複数聞いており、地域から必要とされている事業者が、後継者不在により廃業してしまうのは、地域のにぎわいが失われるのではないかと危惧をしています。

このような後継者難の事業者に対し、これまで大阪府では、どのように事業承継支援に取り組んできたのか、その実績と今後の取組みについて商工労働部長にお伺いたします。

【商工労働部長】

- 府ではこれまで、支援機関等と連携し、事業者へ啓発を行うとともに、年間1万件を超える事業承継診断の実施や事業承継計画の策定を支援してきた。また、M&Aを広めるため、第三者承継に精通した支援者を465名育成し、併せて事業者の引継ぎ先探しを支援してきた。

- 議員お示しのとおり、地域から必要とされているにもかかわらず、事業承継が進んでいない事業者もあると認識しており、これら事業所の承継には、その地域と営業の実態を知り、かつ、日常的な経営者とのコミュニケーションが重要。令和7年度から、こうした事業者に対し、地域において商工会を中心に事業承継を支援していくための検討を商工会を取りまとめる大阪府商工会連合会と始めているところ。
- 引き続き、事業承継について啓発を続けるとともに、地域において事業承継支援を進める商工会・商工会議所等の取り組みをサポートしていく。

【要望】

大阪は過去から商売のまちとして栄え、今もなお、素晴らしい企業、法人、商店が多くあります。後継者不足が要因で自分の代で暖簾をおろす選択、いわゆる「もったいない廃業」が1件でも減るよう引き続きお願いいたします。

4. 自転車に関する道路交通法改正内容の周知

次に、自転車に関する道路交通法改正内容の周知についてお伺いいたします。道路交通法の改正により、来年4月1日から自転車の交通違反について、交通反則通告制度が導入され、いわゆる青切符と呼ばれる反則切符による反則金の納付など自動車の交通違反と同様の手続きになる予定と報道等で承知しています。本制度が導入されることは、私の周囲でも大変関心が高く、多くの府民から注目されていると感じています。

しかしながら、街中では、自転車が歩道通行し、車道を右側通行するなど、交通違反になる状況が散見されています。府民の方が自転車の交通ルールについて理解できていないのではないかと危惧をしており、このまま本制度が始まれば、取締りの対象となるケースも多くあるのではないかと考えています。

私は、自転車が関係する悲惨な交通事故を未然に防止するためには、交通指導取締りに加えて、正しい交通ルールを周知するための適切な広報啓発を実施することが極めて重要であると考えております。そこで、来年の本制度導入に向けた自転車の交通ルールの周知について大阪府警察としてどのように取り組むのか、本部長にお伺いいたします。

【警察本部長】

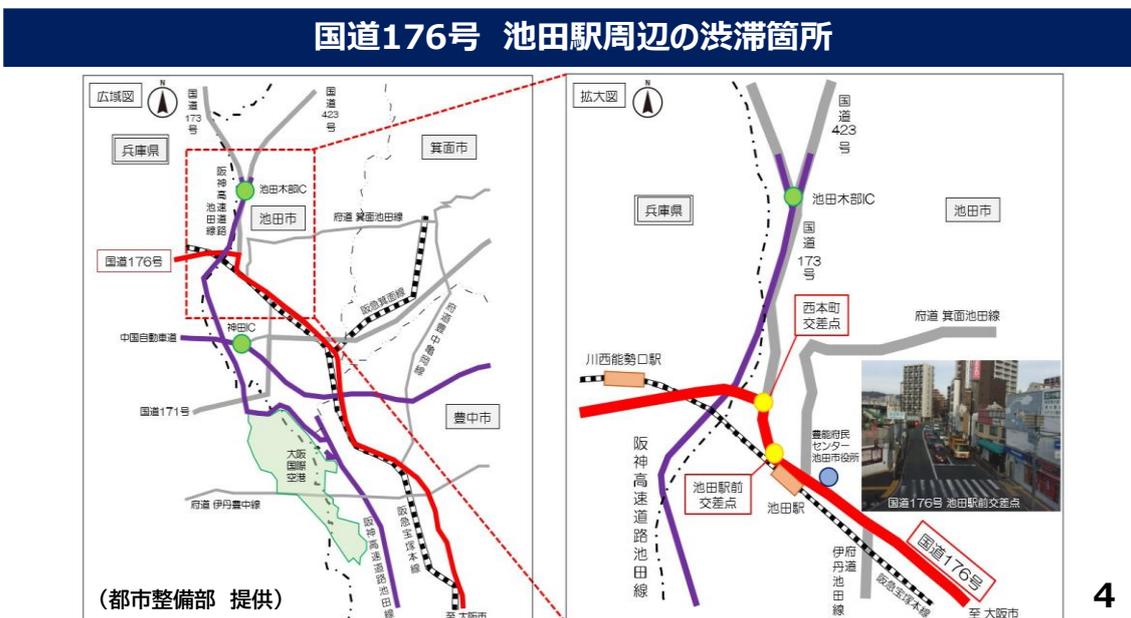
- 自転車の正しい交通ルールの周知につきましては、府警ウェブサイトやSNSのほか、大阪府下の学校、自動車教習所などに対する啓発チラシ、啓発動画の配布提供や、関係機関・団体と連携した各種交通イベントの実施など、あらゆる機会を活用し積極的に取り組んでおります。
- 特に、昨年における自転車乗用中の死者数が全国ワーストである当府において、年齢別死傷者数が最多となっている高校生に対しては、昨年11月から、大阪府教育庁と連携し、生徒の主体的な取組を通じて交通安全意識を高め、交通ルール・マナーの改善を目的とした「Safety Bicycle (セーフティバイシクル)推進校プロジェクト」に取り組んでいるところで
- 大阪府警察といたしましては、来年春の施行に向けて、様々な広報媒体を活用して丁寧に周知を図るなど、一人でも多くの府民の皆様に自転車の正しい交通ルールを理解し、実践していただき、自転車乗用中の悲惨な事故が一件でも少なくなるよう、取り組んでまいります。

【要望】

引き続きオール府庁で府民の生命を守るための取組みをよろしく願いいたします。自転車は歩道を走るものという認識を持たれている方も依然多いですし、正しいルールを頭では理解していても、つつい習慣で歩道を走ることもあるかと思えます。ぜひとも事故抑制の目的の下、積極的な取組みをお願いいたします。

5. 国道 176 号の渋滞対策

次に、国道 176 号の渋滞対策についてお伺いたします。



私の地元池田市の中心部を通る、国道 176 号阪急宝塚本線池田駅周辺の区間では、夕方を中心に慢性的な渋滞が発生しており、池田駅前交差点や西本町交差点は、主要渋滞箇所位置付けられています。

本区間を通過する交通を分散させることを目的に、事業費 2,086 億円をかけ、平成 10 年 4 月には阪神高速道路池田線の延伸事業が実施されました。加えて ETC 搭載車を対象に、平日の朝夕の時間帯割引が導入されるなど、既に渋滞対策に取り組まれています。依然として地域住民から対策を求める声があがっています。

沿道の状況から、現道を拡幅するなど抜本的な対策が困難であることは承知していますが、何らかの対策が必要であると私は考えております。そこで、国道 176 号の池田駅周辺における渋滞対策について、都市整備部長の所見をお伺いたします。

【都市整備部長】

- 国道 176 号におけるお示しの区間については、駅周辺で交通が集中することに加え、信号がある交差点の間隔が短く、通過する車両の移動速度が低下するため、渋滞が発生している状況。

- 本府においては、今年度、地域の交通事情に応じた効果的・効率的な渋滞対策に取り組むため、車両の移動経路や走行速度を可視化し、交通集中の状況などを広域的に把握することなどを目的に、ビッグデータを取得する予定。
- 国道176号の池田駅周辺における渋滞対策については、このビッグデータの活用により、本区間を通行する車両の移動特性を分析し、他のルートへの迂回誘導による交通分散を図るなど、大阪府警察をはじめとした関係機関と協議の上、対策の可能性を見極めていく。

【要望】

引き続き、府民の快適な生活のための取り組みをお願いいたします。

6. AED使用方法の啓発

最後に、AED使用方法の啓発についてお伺いいたします。

速報値ですが、消防庁の報告によると令和6年中の救急車の出動件数は大阪府で70万4,080件、うち搬送人員は60万6,737人と、出動件数、搬送人員ともに過去最多となっています。

突然の心停止など重篤な状況では、その場に居合わせた方の一次救命措置が重要です。平成16年に医療従事者以外のAED使用が認められて以降、市中へのAEDの設置は一定進んできましたが、実際にAEDが使われるケースは5%程度と、少ない現状があります。また、「難しそう」といった理由で使用への心理的ハードルが高いと感じている方も多いと聞きます。

府民の皆さんが躊躇なくAEDを使えるよう、具体的な使用方法について理解を深めることが重要だと考えます。停止患者の救命率向上のため、府民に対するAED使用方法の啓発の取り組みについて、健康医療部長にお伺いいたします。

【健康医療部長】

- 心停止後のAED等による救命措置は救命率向上に非常に重要で、電気ショックが1分遅れるごとに救命率は約10%ずつ低下していくと言われており、救命効果の高いAEDのさらなる利用促進に向けた啓発が重要と認識。
- 府としては、初めての方でも恐れずにAEDを使用していただけるよう、民間企業との連携により、具体的な使用手順などをわかりやすく記載した啓発資材の作成・配布等を行っている。

- さらに、府内の消防機関において、地域住民等に向けて年間 2800 回以上の救命講習会を実施しているところであり、今年度は、これらの講習会を府 HP でも案内するとともに、新たな啓発動画の作成にも取り組むこととしている。
- 今後とも、AED の使用が躊躇されることで人命が失われないよう、消防機関や民間企業等と連携しながら、積極的な啓発に努めてまいります。

【要望】

すでに様々な取り組みをしていただき、ありがとうございます。

私ごとではありますが、議員活動の傍ら消防団員としても活動しています。消防団に入る前は私自身も AED を使えるどころか触れたこともなく、「使えない」「怖い」といったネガティブなイメージを持つ一人でした。自分自身が講習を受け AED を使えるようになり、その感想は「AED を使うことは決して難しくはない」というものです。

保育士を対象に実施した救命講習会



(池田市天神 てんじんこども園 / 2024年5月29日撮影)

5

こちらは、消防団活動の一環で実際に AED の使い方を説明している写真です。

男性消防団員を対象に実施した救命講習会



(池田市消防団／2023年10月8日撮影)

6

こども園などの教育施設で先生や保護者を対象として実施したり、消防団男性団員の方を対象に様々なところで講習を実施しています。

自分の家族や大切な人が目の前で倒れたときに、もしAEDが近くにあり適切に使うことができれば、救急車が来るまでの間、その大切な人の命を自分の手で救えるかもしれません。現在、5%しか使われていないという現状は、目の前にある救えるはずの命を救えない可能性を高めている危機的状況にあると思います。今後もAEDを使える人が増えていくように、私もこれまで以上に率先して行動いたします。大阪府としてもAEDでたくさんの人命が救われるよう、引き続き積極的な取り組みをお願いいたします。

併せて、要救助者が女性の場合、下着や肌の露出を理由に救命処置を躊躇されるケースがたくさんあると聞きます。救命を目的とした善意に基づく行為は責任を問われることが無いということも、併せて周知していただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。